

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

開催報告

伊那弥生ヶ丘高校

将来活用【事業、アイデア】プレゼン大会

2026.2.7

---

# 開催報告

## 開催概要

- 日時 : 2026年2月7日(土) 14:00-17:00
- 開催場所 : 伊那市防災コミュニティセンター
- 参加者 : 約90人(一般参加:約80人、協議会メンバー・市職員・関係者:約10人)

## プログラム

### 1. はじめに

- ・全体コンセプトについて
- ・メイン事業、その他事業について
- ・伊那市長へのプレゼンについて

### 2. プレゼンテーション

発表者	プレゼンタイトル
吉岡 秀幸	くらしの公園
神谷 みな美	文化芸術の場作りについて
塚本 晴佳	なぜ街にアートが必要なのか
小林 一生	大人の幸せが繋ぐ子供たちの未来
西山 実法	学びをひらく、防災研修と実証の場
石田健祐、縄達也	希望のまち 弥生の丘プロジェクト
戸枝 智子	多世代の学び舎構想(希望のまち 弥生の丘プロジェクト)

発表者	プレゼンタイトル
須永 理葉	弥生ヶ丘の使い方と暮らし方
北原 伍	地形位置から見た伊那弥生ヶ丘高校の位置から提案
須永 想	弥生ヶ丘高校を伊那小に
鄭 喆敏	文化・技術・自然、そして未来
片桐 弘貴	子どもたちが安全にアーバンスポーツを楽しめる「遊びの場」の常設的な環境の提案
安井 隆	廃校を活用した複合施設が地域にもたらす様々なメリット -水戸ホーリーホックを事例に-
平賀研也、山本風音	フォレストセンター
平賀 裕子	伊那市の生きると学ぶが全部詰まった地域カンパニー

### 3. 坂口さんの感想と対話 坂口 淳 氏(公民連携地域づくりプロデューサー)

### 4. まとめと共有



弥生将来活用WG 平賀裕子

「全体コンセプトについて」

- ・本日のプレゼンは「生涯にわたる本質的な学びの場」、  
「森といきる伊那市」を全体コンセプトとしてプレゼン  
していただく

「メイン事業、その他事業について」

- ・メイン事業…施設の顔となる事業で、大規模な事業
- ・その他事業…付随する事業。メイン事業よりも小規模な事業



「伊那市長へのプレゼンについて」

- ・3月19日に伊那市長へのプレゼンを行う
- ・弥生ヶ丘高校は県の所有であるため、その後長野県に対しても  
プレゼンテーションを行いたい



#### 「くらしの公園」

- コンセプトはその場所に「意思」「軸」を持たせる。
- 伊那市が既に持っている価値、魅力に教育、森といきる伊那市、オーガニックビレッジ宣言がある。
- これらを磨いていくと輝くと思う
- 3つはバラバラになっているので、一つの場所に芽に見える形で統合し顕現

#### 「文化芸術の場作りについて」

- アートやデザイン的思考は生きる力につながっている
- デザインを学ぶ中では「ちゃんする」がきつかった
- こどもに「やらせたい気持ち」を持っているが、今、表現できる「場所」が足りていない
- 大人は「委ねられる」 こども若者は「試せる」地域のアーティストが「関われる」
- 完成しないを受け止め、途中を置いておく  
= プロセスを語り合う場



#### 「なぜ街にアートが必要なのか」

- ごはん、トイレの環境は良くなっているが、うんちができるプロセスを普段気にしていない
- アーティストは人一倍プロセスに向き合う人たち
- プロセス = 発酵
- 弥生の将来活用にアートの要素を加えてほしい



#### 「大人の幸せが繋ぐ子供たちの未来」

- ・ 少子化の影響で、吹奏楽部は10人から20人規模が普通
- ・ 練習場所、指導者・講師、費用が市民楽団の課題
- ・ いなっせにはない学校の部屋の多さが弥生にはある
- ・ 世代を超えた学び合いができる
- ・ 地域文化が循環する場所にできれば

#### 「学びをひらく、防災研修と実証の場」

- ・ 弥生ヶ丘高校をこれからの生きる力を育むための防災プラットフォームに
- ・ 地域の日常と民間の挑戦が交差する場所に
- ・ 市民、企業、外部が自然につながり続ける仕組みを作る
- ・ 人が来る→知恵が残る→子どもたちが考える→企業が関わるというサイクルができる



#### 「希望のまち 弥生の丘プロジェクト」

- ・ 子どもの権利条例を具現化した場所を作る
- ・ 不登校児童生徒数は右肩上がり
- ・ 学校に行けない子どもたちの居場所も無償であるべき
- ・ 学びの「新しい当たり前」をつくる
- ・ さくら国際高校伊那サテライトもいなっせでは場所が狭い





#### 「多世代の学び舎構想」

- 戦争の悲劇→平和祈念館
- 長寿社会開発センター→シニア大学  
キャンパスがないため、金曜日以外学友に会えない
- 大学のサテライト  
こども、若者、シニアが集まる場所になる
- 上伊那広域の食料倉庫（フードバンクセンター）
- 市民活動センター設置

#### 「弥生ヶ丘の使い方と暮らし方」

- 校舎の寿命は使ってもあと20年から30年、解体に10億円
- 県から無償か安く借りては？ 不要施設は壊しておいてほしい
- 県は県民のウェルビーイング、市は市民のウェルビーイング  
や目的型ふるさと納税、みんなは場の運営という役割
- 敷地の活用 学びの森 駐車場 施設をつなぐキャノピー
- もしここに住んだら



#### 「地形位置から見た伊那弥生ヶ丘高校の位置から提案」

- 都会からこどもを受け入れるのはどうか
- サマースクール、ウィンタースクール
- いつか伊那に住んでみたいと思ってもらえるかも
- 年寄りのいきがい対策、町の活性化につながる



## 「弥生ヶ丘高校を伊那小に」

- ・今の伊那小は、寒い、水道の水調整できない、床きしむ
- ・最近改築されていない
- ・これから通う下級生のために建て替えたい
- ・伊那西小のこどもと一緒に勉強できる

## 「文化・技術・自然、そして未来」

- ・プールはつぶして駐車場に
- ・混合教室棟は企業に貸し出し、賃料をとってはどうか？
- ・老人活動、コミケ
- ・伊那のカルチャーを広げていける



## 「子どもたちが安全にアーバンスポーツを楽しめる「遊びの場」の常設的な環境の提案」

- ・アーバンスポーツとは…ストライダー、スケボー、BMX
- ・森の体育館を作る
- ・アーバンスポーツ施設がないので、全天候型の施設として、体育館で森といきる伊那市を体現
- ・伊那の材で作る体育館
- ・廃校体育館の利用は全国にある
- ・民間主導の運営モデル



「廃校を活用した複合施設が地域にもたらす様々なメリット  
-水戸ホーリーホックを事例に-」

- ・複合施設アツマーレを参考にしてはどうか
- ・合宿ができる、シャワー室、BBQ場
- ・プロチームが運営
- ・地域巻世代間交流の増加、市民を心身ともに元気に、スポーツファミリー6万人、プロチーム誘致をめざす
- ・木更津や鳥取にも同様の施設がある

「フォレストセンター」

- ・伊那谷ネイチャーセンター  
…体験的な学びを核に、人、組織、財源をつなぐ公民連携事業
- ・県または上伊那広域の教育行政事業と位置づけ、運営は民間
- ・収益事業として自然学校、企業の合宿研修
- ・森と学びセンターによる主体的で対話的な学びへ



「伊那市の生きる学ぶが全部詰まった地域カンパニー」

- ・スポーツ棟、アート棟、多様な学び棟、森と生きる暮らし体験棟、森のプレイパークなどを設置
- ・運営母体として、不動産管理をするSPC(特別目的会社)と地域の魅力を商品化する地域カンパニーが両輪となり運営。事業オーナーと知恵、人財、資源の循環を繰り返しながら、年間来場者10万人を集める
- ・最後は誰がやるかに尽きる 身銭きってリスク取ってやる覚悟



## 坂口さんの感想と対話、伊那市長から



坂口 淳 (公民連携地域づくりプロデューサー)

- ・やる方たちがどの程度コミットしてリスクを負ってやるのか？
- ・覚悟を持ってやれるのか？
- ・「いいことだから税金使って助けて。」というのは違う。
- ・自立していけるのか？数字の話がなかったのは残念
- ・何が足りて何が足りないのかわかるのも大事
- ・それぞれの事業は誰のため？何のため？
- ・公共サービス？民間サービス？
- ・長期間のスパンの話し。借金背負ってやるぜという人がどれだけいるか
- ・サラリーマン感覚の人ばかりだとどううまく行かない



白鳥 孝 (伊那市長)

- ・伊那市は、食、水、エネルギーの自活をめざしている
- ・これまで教育移住が多かったが、安心して暮らせる場所としての移住者が増えている
- ・人材が集まっているという話題が出たが、その通りだと思う。
- ・不登校を減らすというのは、弥生の跡地活用に入れてほしいと思っている。自分のいいところを引き出す教育環境
- ・大学のフィールドワークができる場所もありだと思っている

## (参加者アンケートから)

### プレゼンテーションをされた方から

- ・貴重な機会をつくって頂きありがとうございました！今日のアイデアを具体にしていくためのDoをたくさんしていきましょう。
- ・良い時間となりました。覚悟を持って一緒にやりたいです。
- ・熱い想いを持っている人が、伊那にこれだけいるということを感じられて良かったです。
- ・あの場所自体が大きなパブリックパークになったら最高に面白く、街の一つの魅力につながると思いました。学びと商業が一つになっていることで人に流れは必ず生まれると思います。
- ・さまざまな立場の方のプレゼンを一度に聞ける機会として、とても興味深い時間でした。分野や視点の違いによって、地域の課題の捉え方が多様であることを改めて感じました。
- ・皆さんの様々な切り口に驚かされました。我々は事業でなく公共施設としてのアイデア提案でしたので、趣旨が違ってましたら申し訳ありませんが、切実な思いとしてお話しさせていただきました。ありがとうございました。

### 傍聴された方から

- ・母校でもあり、子供から高齢者までいろいろな困難にぶち当たってる方たちが集まって何か出来れば良いかなと試してみました。想像以上にレベルの高いプレゼンテーションでした★
- ・どのプレゼンもとても素晴らしく、勉強になりました。みなさんが思い描く形の中に、私たちの事業が入るとしたら？そこでやる意味は？ここでみなさんと一緒にできることはなんだろう？を考えるきっかけになりました。
- ・新しい視点をたくさん学べたセミナーでした。これだけの人材が伊那市にいることは素晴らしいと感じています。
- ・プレゼンは一年かけて協議会が活動した成果が表現できたと思います。総じてプレゼンを整理すれば市長へのプレゼンは可能かとおもいました。官設民営をベースに数値的裏付けがあれば良いかと思えます。この後の動向に期待しつつ、関わって行きたいと思っています。
- ・エネルギー的な15名のプレゼンをお聴きして伊那の未来は明るく楽しみでワクワクしました！5年後には駒ヶ根工業高校の将来活用も問われます。ヒントをたくさんいただきました。伊那と駒ヶ根の市民、企業さんとも連携をとり、より良い持続可能なまちづくり、そこに暮らす人々が心から幸せだと思えるまちづくりを考えて行きたいと心から思えました！ありがとうございました
- ・坂口さんのご指摘のように、最終的には「リスクをとる覚悟を持った人が何人いるか」ということになるのでしょうけれども、あの場に出てきて自分の想いを語ったり、熱心に聞く人があれだけ集まったこと自体が素晴らしく、伊那は人材の宝庫だと感じました。
- ・伊那市の資源や強みを知るには、外からの視点がないとわからないのだからということに改めて実感しました。そうした視点は、自分だけでなく地元組よりも、特に伊那に移住してきた人たちがそれぞれにユニークな視点を持っており、そうしたアイディアが集まる場として、「官民共創のまちづくり場」の役割は大きいなあと感じました。
- ・大きな敷地の弥生ヶ丘高校の利用とか運用とかどうするのだろうと途方に暮れてしまいそうになるのですが、新しい街を作るという発想をしたら何か作れそうな気がした、プレゼンを聞いていてそんな感じがしました。
- ・大変多くの刺激と学びを得る機会となりました。共有していただいた言葉「身銭を切り、リスクをとってやる覚悟」は強く印象に残りました。



伊那新校、上伊那総合技術新校の開校を契機に、  
多様な皆さんとこれからの伊那市のまちを共に考えて創っていきたいという想いで「新しいまちづくり」が始まりました。

## 伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

### 対話・つながり・実現の場

誰かがやってくれるまちづくりに意見する、ではなく、自分がつくる、取り組む人と共にある。  
そんな、つながり、対話し、実現する場をどうしたらできるだろうか。

これからは、想いのある皆さんと共に考え、試行錯誤しながら共創の場をつくっていければと思います。

いつでも、思い立った時に、ふらりと参加でき、まちのこと暮らしのことを気軽に話せる場。  
もっと知りたい、もっとやりたい、やってみようが生まれる場。  
そんな新しくゆるいコミュニティが生まれる場。

そんな、いつでもそこにある場に育てていきましょう。